

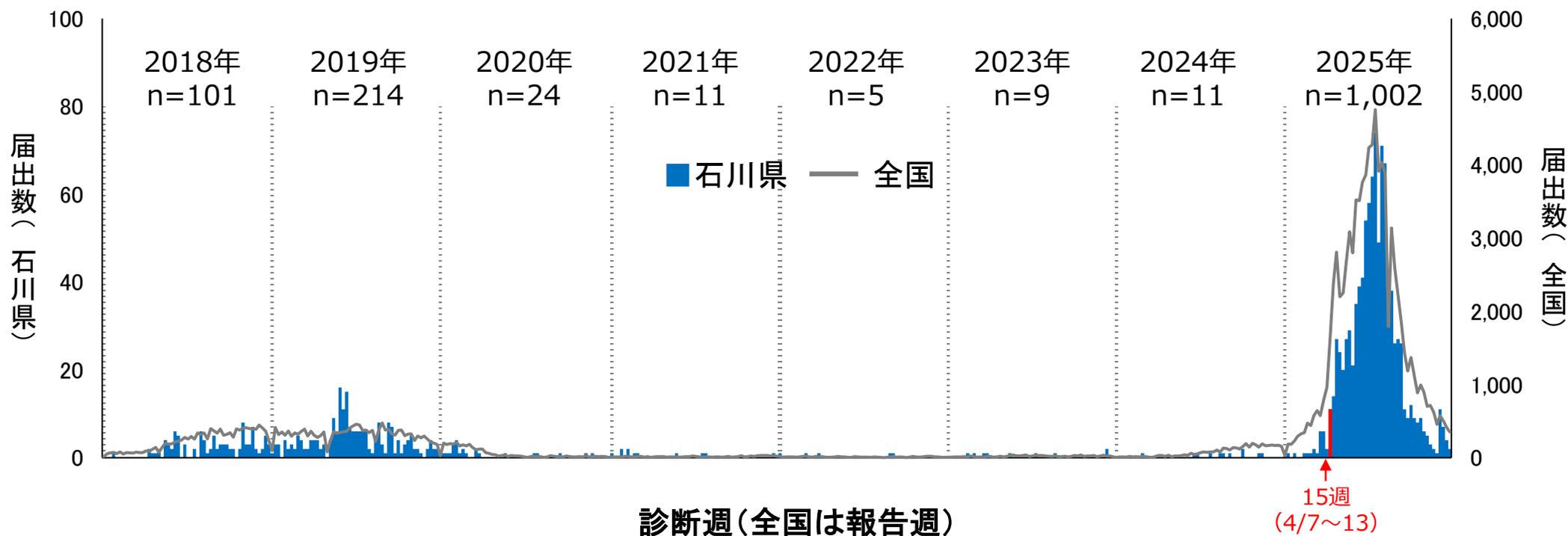
# 百日咳

# 患者情報

# 1. 百日咳の週別届出状況(石川県、全国)

- 2025年は、石川県内で1,002例(届出時点での死亡症例無し)が届出され、その週別推移は全国と概ね同様だった
- 2025年の届出数は、これまで最多であった2019年を大幅に上回り、4月頃から増加し、7月頃をピークとしてそれ以降は減少した

2018年1週～2025年52週 (2026年1月13日時点)



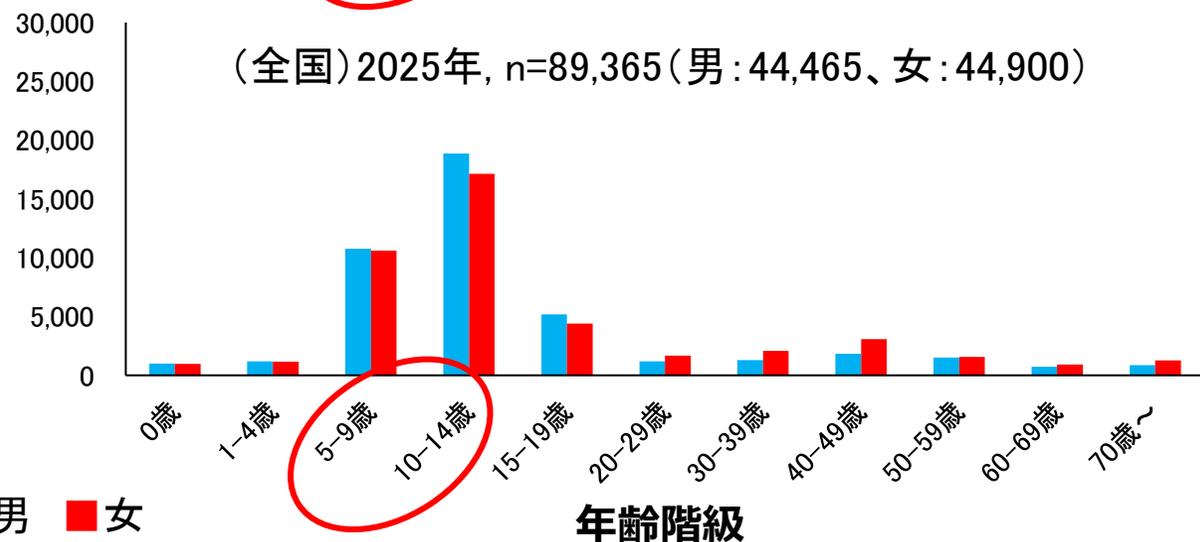
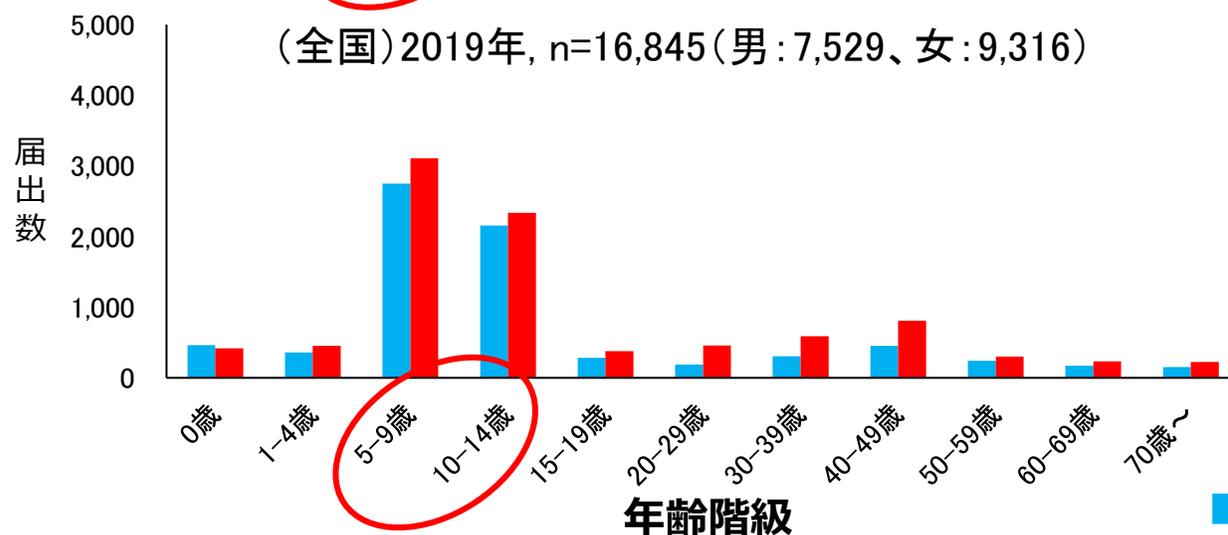
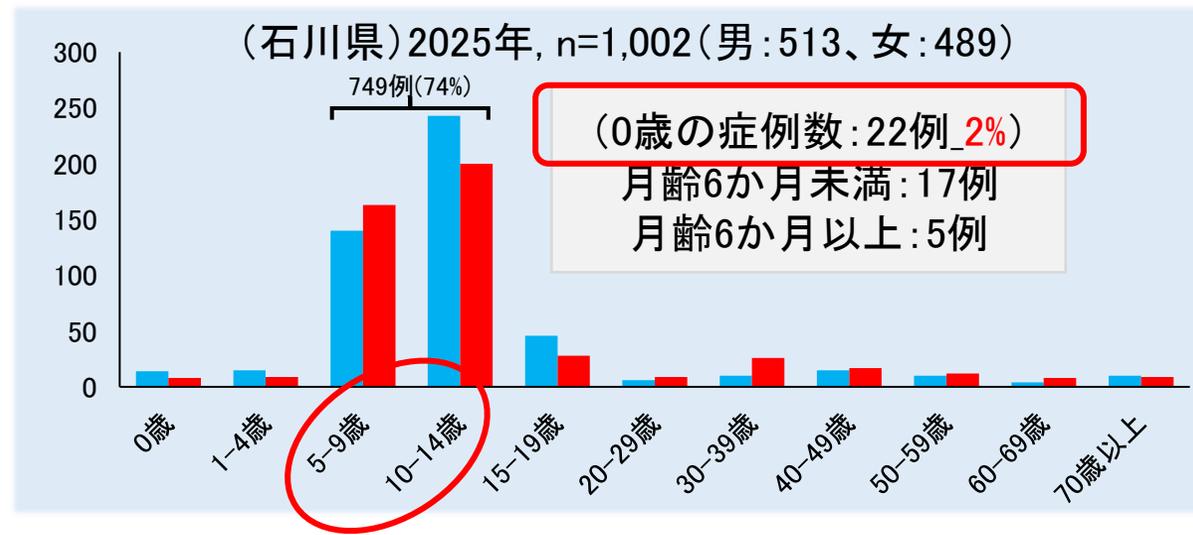
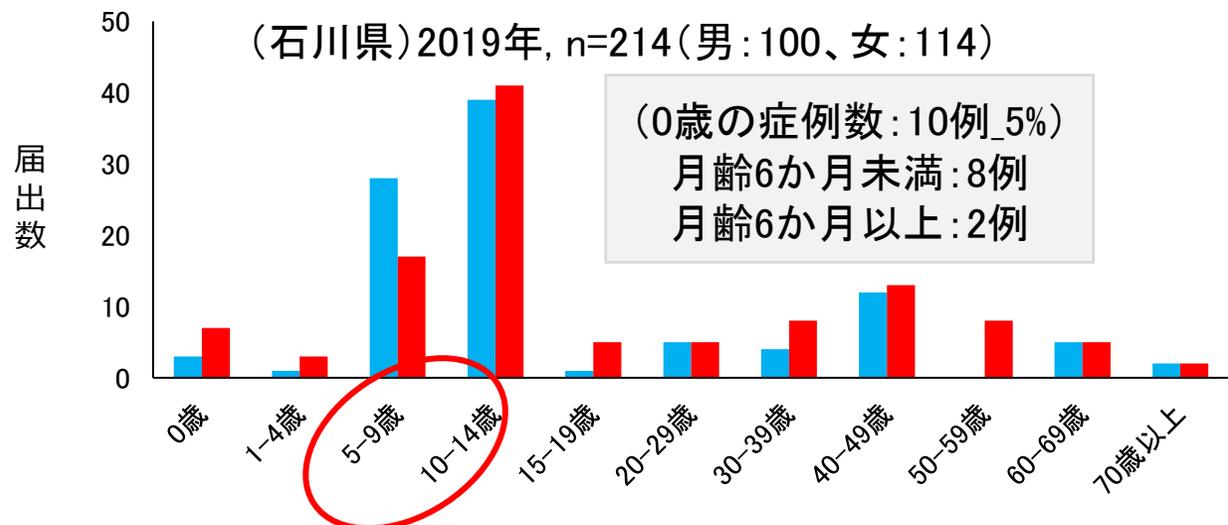
## 2. 保健所別届出状況(石川県)

- 2019年と2025年ともに、5か所すべての保健所管内から届出があった
- 2025年では、5か所すべての保健所管内で、届出数が増加した

	2019年 n (%)	2025年 n (%)
届出数	214 (100%)	1,002 (100%)
保健所別届出数		
金沢市	60 (28%)	312 (31%)
南加賀	120 (56%)	405 (40%)
石川中央	11 ( 5%)	152 (15%)
能登中部	16 ( 7%)	86 ( 9%)
能登北部	7 ( 3%)	47 ( 5%)

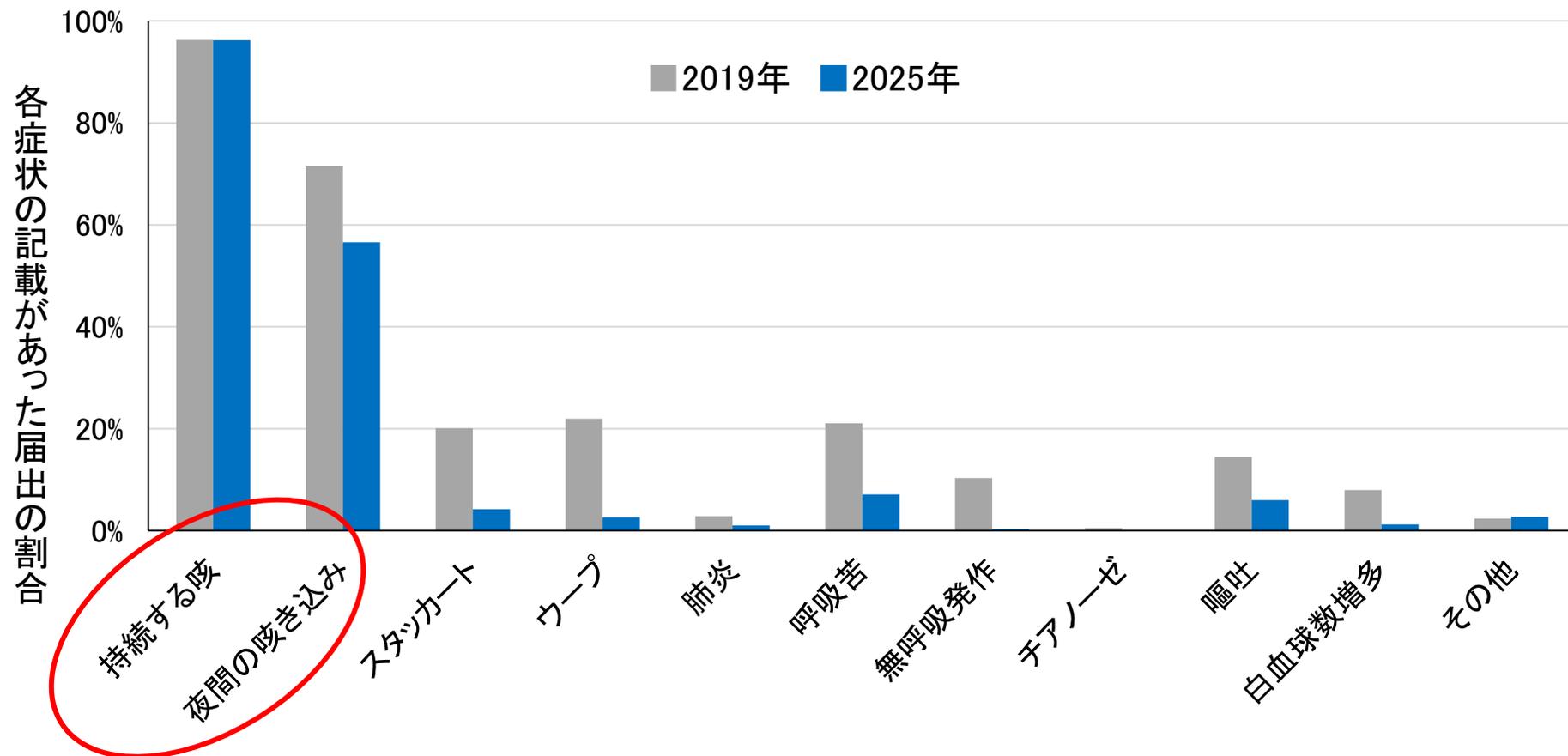
### 3. 男女別及び年齢階級別年間届出数(石川県、全国)

- 2019年と同様に、2025年は、石川県と全国ともに5～14歳の届出数が多かった(746例 74%)
- 2025年における石川県の0歳症例の届出数は22例(2%)だった



## 4. 症状別割合（石川県）

- 2019年と同様に、2025年は「持続する咳」と「夜間の咳き込み」が他の症状に比べて多く報告された



## 5. 診断方法別届出数(石川県)

- 2025年は、病原体遺伝子の検出を用いた診断による届出が67%であり、2019年の33%よりも増加した
- 一方で、抗体の検出による診断の割合は減少していた
- 2025年の届出のうち17%がイムノクロマト法を用いた届出だった

診断方法 (重複あり)	2019年(n=214)	2025年(n=1,002)
	n (%)	n (%)
分離・同定	0 ( 0%)	2 ( 0%)
病原体遺伝子の検出	71 (33%)	673 (67%)
抗体の検出	147 (69%)	146 (15%)
イムノクロマト法※	- (-)	170 (17%)
臨床決定	11 ( 5%)	29 ( 3%)

※2021年6月3日、イムノクロマト法が届出上の検査方法として新規追加

# 病原体情報

## 6. 石川県におけるマクロライド耐性百日咳菌 (MRBP) の検査体制について

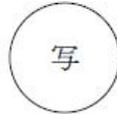
- 令和7年6月17日付 健第914号 医第468号「マクロライド耐性百日咳菌 (MRBP) の鑑別検査の実施について(協力依頼)」

→医療機関へ通知

### 対象

生後6か月以下若しくは予防接種未接種の乳児かつ、以下のいずれかを満たすもの

- ① 百日咳と診断した場合(臨床診断含む)
- ② 病歴、身体所見、接触歴等から百日咳を疑い、自院での百日咳検査の結果判明までに時間を要する場合



健 第 9 1 4 号  
医 第 4 6 8 号  
令和7年6月17日

各保健福祉センター所長 様  
金沢市保健所長 様

健康福祉部健康推進課長  
(公印省略)  
健康福祉部医療支援課長  
(公印省略)

マクロライド耐性百日咳菌 (MRBP) の鑑別検査の実施について (協力依頼)

百日咳については、今般、全国的に患者報告数が増加しており、本県においても、石川県感染症発生動向調査によると、第23週(6月2日～6月9日)時点で累計届出数が222件となっており、すでに2024年の年間届出数11件を大きく上回っています。

百日咳は、特に生後6か月以下の乳児で重症化しやすく、また第一選択薬であるマクロライド系抗菌薬に耐性をもつマクロライド耐性百日咳菌(MRBP)が世界的に問題となっており、本邦でも、MRBP感染による1か月児の死亡事例が報告されています。

今般の流行状況を踏まえ、重症化リスクの高い乳児を対象としたMRBP鑑別のための検査体制を整備いたしましたので、情報提供いたします。

つきましては、貴管内診療所等に周知いただくとともに、医療機関から検査について相談があった場合には、ご対応いただきますようお願い申し上げます。

なお、各病院には、県医療支援課より別途周知済みであることを申し添えます。

記

(1) 対象

生後6か月以下若しくは予防接種未接種の乳児(※特段の理由がある場合には、応相談)

かつ、以下のいずれかを満たすもの

- ① 百日咳と診断した場合(臨床診断を含む)
- ② 病歴、身体所見、接触歴等から百日咳を疑い、自院での百日咳検査の結果判明までに時間を要する場合

(2) 検体について

- ・鼻腔分泌物をレーヨン製の綿棒で採取し、空の滅菌スビッツに入れて保健環境センターまで搬入すること。
- ・原則、検体採取日に搬入すること。(翌日以降の場合は、4℃保存し、冷蔵で搬入)

(事務担当)  
健康推進課 感染症対策室  
TEL: 076-225-1997

## 7. 百日咳菌の検査法について

### (1)リアルタイムPCRにて百日咳菌の確認

百日咳菌を含む類縁菌の検索

リアルタイムPCR

⇒百日咳菌、パラ百日咳菌、*Bordetella holmesii*、*M.pneumoniae* の4種が同時に検出可能

### (2)マクロライド耐性に係る遺伝子の変異確認

**解析対象**: 23S rRNAの2047番目の遺伝子(A2047G)の変異の有無

✓ 2047番目の塩基:A(アデニン)⇒ 変異無し

✓ 2047番目の塩基:G(グアニン)⇒ 変異あり マクロライド耐性※

※これまでのMRBPのほぼ全てがA2047G変異がある

## 8. 検査結果

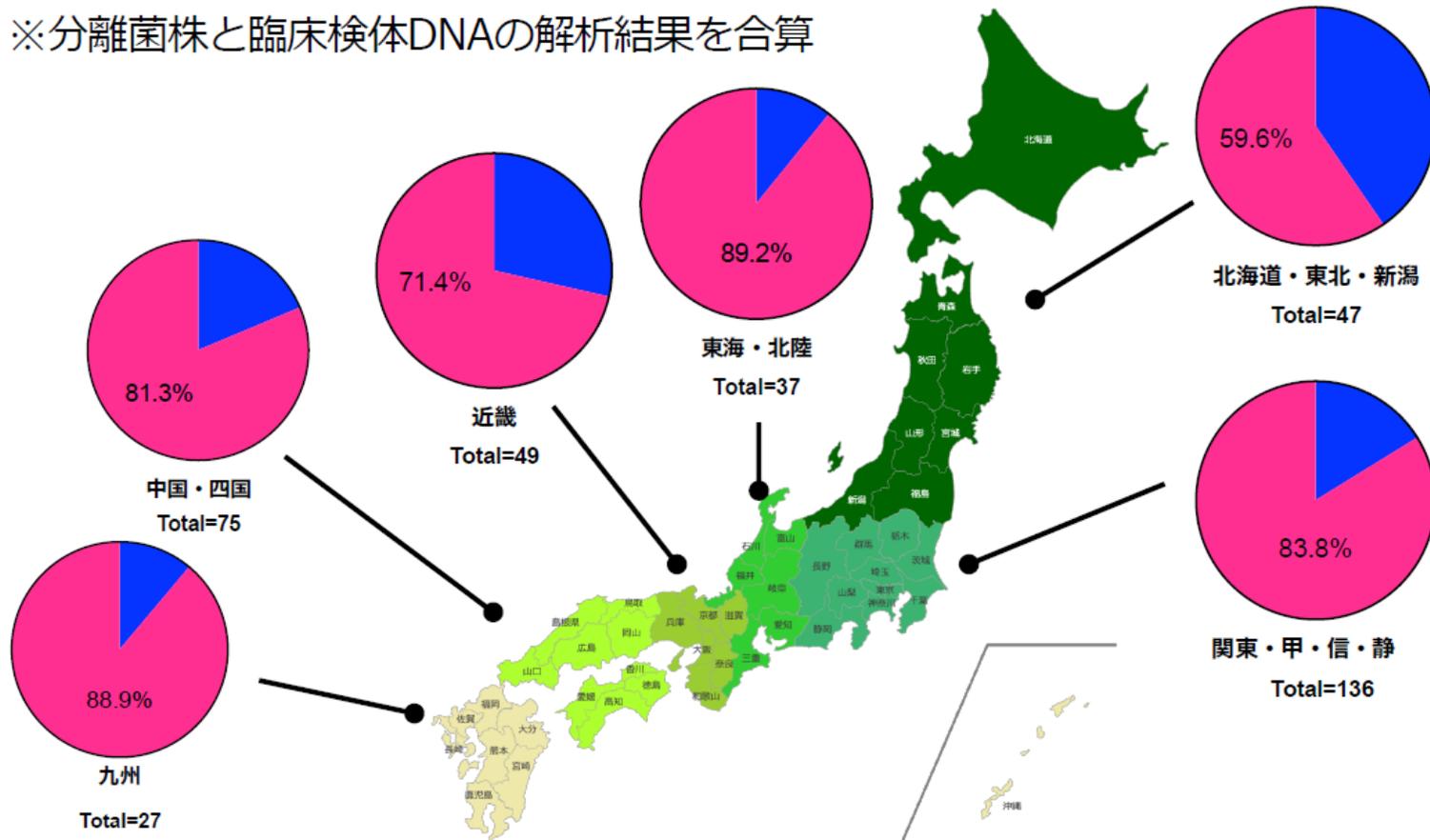
- 2025年の検査依頼は8件あり、うち3件が百日咳菌であった
- 百日咳菌であった3件のうち2件がMRBP(マクロライド耐性変異あり)であった

	年齢 月齢	性別	発病日	検体採取日	菌種 (リアルタイムPCR)	マクロライド耐性遺伝子変異
1	0歳1か月	女	R7.6.15	R7.6.18	<b>百日咳菌 陽性</b>	A2047G 変異なし(感受性)
2	0歳1か月	男	R7.6.26	R7.6.27	陰性	
3	0歳1か月	男	R7.6.25	R7.6.27	陰性	
4	0歳1か月	女	R7.7.27	R7.7.31	陰性	
5	0歳3か月	女	R7.8.29	R7.9.11	<b>百日咳菌 陽性</b>	A2047G 変異あり( <b>耐性</b> )
6	0歳3か月	男	R7.9.23	R7.9.30	<b>百日咳菌 陽性</b>	A2047G 変異あり( <b>耐性</b> )
7	0歳2か月	男	R7.9.24	R7.10.3	陰性	
8	0歳3か月	男	R7.10.17	R7.10.22	陰性	

# 9. 全国のMRBP検出率(参考:国立感染症研究所資料)

## ● 地区ごとの百日咳菌23S rRNA遺伝子変異検出率

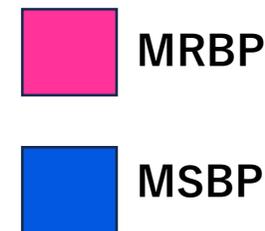
※分離菌株と臨床検体DNAの解析結果を合算



百日咳検査実績アンケート調査  
 国立健康危機管理研究機構  
 国立感染症研究所  
 細菌第二部第一室

- ・回答施設数: 41施設
- ・対象期間: 2025年7月~9月

(2025年11月10日更新)



### 制限

- ・一部の地方衛生研究所における調査結果
- ・地方衛生研究所により、調査対象等が異なる